

会計システム専門監査人部会 活動報告

システム監査学会
会計システム専門監査人部会

発表者：平塚康哲

2015年 6月 5日



All Rights Reserved, Copyright Japan Society for System Audits 2015

会計システム専門監査人部会の活動

会計システム専門監査人とは、平成20年度から施行された改正金融商品取引法(J-SOX法)において、公認会計士による会計監査の中で、主にIT統制に対する監査を行う専門監査人。
ITのシステム監査知識と会計監査に対する理解が要求される。

これまでに、会計システム専門監査人が使用する目的で「会計システム監査実施ガイド」の作成、実践的な会計システムのシステム監査を行う事を目指し「SAP ERPの業務処理統制の実際的例の研究」における成果物の作成を行って来た。

市場経済が変化し出している現在、今後会計システム専門監査人に求められる資質、スキル等を再確認する為に部会内において、討議を進めている。

発表テーマ

部会活動報告

会計システムのシステム監査の将来についての考察

"Next Stage of Accounting System Audit "

発表者 平塚康哲

発表協力者 藤田 登志夫、大島 誠、最首 克也



テーマについて

様々な見解はあるものの、日本の経済は、徐々に回復しつつあるというのが、一般的な見方であると考えられます。

企業会計においては、経済低迷期の中でも、変化して来ているとみられます。

当部会では、専門監査人制度発足から10年以上の時間が過ぎ、このような世の中の情勢が変化している事から、今後の会計システム専門監査人の役割、或は適応範囲も変化する必要があるという認識を持つ様になりました。

必要な資質を保つ事が、専門監査人としての存在意義であると考え、昨年度から討議を開始しております。

まだ現状把握の段階で、結論に至るまでの論議が出来ておりませんが、現時点での部会内での討議内容を紹介し、部会外からもご意見を頂ければ幸いと考えます。

情勢の変化として提起された事項

1. 会計制度/内部統制/コーポレートガバナンスの動向
2. 企業側不正リスクの質
3. 会社法、民法改正等から必要となる法務・コンプライアンス領域
4. IT環境(基盤等)
5. サイバー攻撃に対する防御の必要性

会計制度/内部統制/コーポレートガバナンスの 動向

- IFRSへの対応

経済低迷により、積極的な対応は先送りされて来ているが、将来的には確実に必要となる

- 新しいコーポレートガバナンスへの対応

J-SOXの浸透、COSOの改訂/COBIT5等コーポレートガバナンスにおける考え方にも変化が出ている

企業側不正リスクの質

- 経営者をはじめとする企業側の意図する財務諸表への虚偽表示の事例の増加
粉飾決算、不正経理/会計の事件が出ている
- 日本においては、世の中を震撼させる規模の不正事件の発生はなくなって来ているが、不正事件は多い。
- 最近では、大手電機系企業における売上経常の不正が明らかにされている。
- 企業という組織だけではなく、団体や公的機関における不正事件も頻繁に明らかにされる様になって来ている。
- 世の中での不正に対する厳しい見方が高まって来ていると言える。

会社法、民法改正等から必要となる法務・コンプライアンス領域

- 企業経営は、法令遵守が基本
日本における“会社”の通念が変化している。より国際的な概念に近づいている。
- 経営者・経営層の意識の変化が必要となっている。(会社は誰のもの?)
- 世の中の企業に対する評価において、コンプライアンスは大きなポイントを占めて来ている

IT環境(基盤等)

● クラウド環境の一般化

クラウドの浸透により、クラウド環境を利用する事が一般化して来ている。
クラウド環境利用による内部統制の向上が図られていると考えられる。

第三者の視点

一方で、クラウド環境におけるリスク評価の重要性が増している。
高いセキュリティ機能の要求が利用企業から出ている。
内部統制において、セキュリティを加味したシステム監査の必要性が考えられる。

外部からの不正関与への対策

委託先での内部統制評価の必要性

サイバー攻撃に対する防衛の必要性

- 情報システム全体に対する安全性の確保
企業の基幹システムへの攻撃の可能性は高まっている

単なる情報搾取だけではなく、改竄、或はそれらの行為を行うという脅迫行為等が発生する可能性

IT全般統制上におけるセキュリティを加味した監査の必要性
標的型攻撃、水飲み場型攻撃

クラウドサービスにおけるセキュリティ評価の重要性

オンプレミスにおける安全性評価

今後の活動

専門監査人として今後どうすべきかを考える

- 情勢の変化に対して、どの様な知見が必要で、それをどう取得して行くかを議論し、実施して行く。

多分野も含めた総合的な見地からすると:

- 複合的なリスクに対する評価が行える事が必要となっている
- 「会計システム」という意味が、企業の基幹システム全体として捉える事の必要性が高まっている
- 不正行為への敏感な知覚が求められる

会計システム専門監査人部会 活動報告

御清聴ありがとうございました

システム監査学会
会計システム専門監査人部会

JSSA

All Rights Reserved, Copyright Japan Society for System Audits 2015

11